

平成 30 年 2 月 18 日 (日) 施行

## 第 189 回 全経簿記能力検定試験 1 級 商業簿記・会計学 解説

### 第 1 問

1. 企業会計原則 第三 貸借対照表原則 一
2. 企業会計原則注解 [注 1]

### 第 2 問

1. 売上割引  $¥300,000 \times 1.5\% = ¥4,500$
2. 焼失した資産の帳簿価額は  $¥710,000$   
 倉庫:  $¥900,000 - ¥270,000 = ¥630,000$   
 商品:  $¥80,000$   
 保険契約額  $¥600,000 \rightarrow$  火災未決算 これを超える  $¥110,000$  は火災損失
3. 見積工事原価総額  $¥12,340,000 + ¥35,660,000 = ¥48,000,000$   
 工事収益は  

$$¥60,000,000 \times \frac{¥12,340,000}{¥48,000,000} = ¥15,425,000$$
4. 投資有価証券  $¥3,000,000 \times (\frac{¥98.9}{¥100}) + ¥18,000 = ¥2,985,000$   
 また、最後の利払日 (9 月末日) から 2 か月経過しているため、  
 有価証券利息  $¥3,000,000 \times 2.4\% \times (\frac{2 \text{ か月}}{12 \text{ ヶ月}}) = ¥12,000$
5. 資本金の 4 分の 1  $¥3,000,000 \times (\frac{1}{4}) = ¥750,000$   
 資本準備金 + 利益準備金  $= ¥320,000 + ¥160,000 = ¥480,000$   
 ① 準備金の要積立額は  $¥750,000 - ¥480,000 = ¥270,000$   
 ② 配当金の  $\frac{1}{10} = 3,000 \text{ 株} \times ¥700 \times (\frac{1}{10}) = ¥210,000$   
 ① > ② より ② の全額を積み立てる。  
 配当財源は  
 その他資本剰余金  $¥210,000 \times (\frac{¥200}{¥700}) = ¥60,000 \rightarrow$  資本準備金  
 繰越利益剰余金  $¥210,000 \times (\frac{¥500}{¥700}) = ¥150,000 \rightarrow$  利益準備金
6. リース料支払総額  $¥120,000 \times 4 \text{ 年} = ¥480,000$   
 見積現金購入価額  $¥450,000$   
 利息相当額  $¥480,000 - ¥450,000 = ¥30,000$   
 購入時：  

(借) リース資産	450,000	(貸) リース債務	450,000
-----------	---------	-----------	---------

 ① 減価償却 所有権移転外ファイナンスリースなので残存価額ゼロ  
 $¥450,000 \div 4 \text{ 年} = ¥112,500$   
 ② リース料の支払い  
 支払利息額  $¥30,000 \div 4 \text{ 年} = ¥7,500$   
 リース債務の返済額  $¥120,000 - ¥7,500 = ¥112,500$

**第3問**

(借) 売掛金(福岡商店)	500,000	(貸) 売	上	500,000	→売上伝票
(借) 受取手形	200,000	(貸) 売掛金(福岡商店)		200,000	→振替伝票
(借) 仕入	282,000	(貸) 買掛金(山口商店)		282,000	→仕入伝票
(借) 買掛金(山口商店)	150,000	(貸) 受取手形		150,000	→振替伝票
(借) 買掛金(山口商店)	2,000	(貸) 現金		2,000	→出金伝票
(借) 現金	170,000	(貸) 売掛金(長崎商店)		170,000	→入金伝票
(借) 売	上	48,000	(貸) 売掛金(島根商店)	48,000	→売上伝票

**第4問** 省略

**第5問**

[資料2] 検討事項

## 1. 当座預金

(1) (借) 当座預金	12,000	(貸) 売掛金	12,000
(2) 仕訳なし			
(3) 仕訳なし			
(4) (借) 当座預金	800	(貸) 未払費用	800

## 銀行勘定調整表

当座預金勘定残高	67,200	残高証明書残高	65,400
(加算)		(加算)	
(1)連絡未通知	12,000	(2)時間外預入	15,800
(4)未渡小切手	800	(減算)	
(減算)		(3)未取付小切手	1,200
	<u>80,000</u>		<u>80,000</u>

(2)は時間外預入れ、(3)は未取付小切手なので、当座預金の残高は

$$67,200 \text{ 千円} + 12,000 \text{ 千円} + 800 \text{ 千円} = 80,000 \text{ 千円}$$

また、残高試算表より、現金の残高は 52,660 千円なので、現金及び預金は

$$52,660 \text{ 千円} + 80,000 \text{ 千円} = 132,660 \text{ 千円}$$

## 2. 仮払金の処理

(借) 仮払法人税等	25,000	(貸) 仮払金	85,000
※ 備品	60,000		

※ [資料3] の4 ②新備品の購入 参照

### 3. 仮受金の処理

(借) 仮受金	300	(貸) 償却債権取立益	60
		前受金	240

商品売り上げの仕訳 (税抜価格)

(借) 前受金	240	(貸) 売上	1,200
現金	960		

すでに仕訳がなされている。

(借) 現金	960	(貸) 売上	960
--------	-----	--------	-----

これに前受金充当の仕訳を加える

(借) 前受金	240	(貸) 売上	240
---------	-----	--------	-----

損益計算書 売上高：851,700千円+240千円=851,940千円

なお、この商品の仮受消費税については、本問の解答用紙には資産の部のみの記載のため、未払消費税の計算が不要となる。そのため消費税の計算は考慮外とした。

#### [資料3] 決算整理事項

##### 1. 受取手形の期末残高は11,500千円

売掛金の期末残高は〔資料2〕検討事項1より 25,500千円-12,000千円=13,500千円

貸倒引当金は (11,500千円+13,500千円) × 3.0% = 750千円

残高試算表の貸倒引当金残高は150千円なので、差額補充法により、

(借) 貸倒引当金繰入	600	(貸) 貸倒引当金	600
-------------	-----	-----------	-----

##### 2. 有価証券の評価替え

多摩会社株式 (2.9千円-3.0千円) × 10,000株 = △1,000千円 (評価損)

山手会社株式 (5.2千円-4.9千円) × 20,000株 = 6,000千円 (評価益)

(借) 有価証券	5,000	(貸) 有価証券評価益	5,000
----------	-------	-------------	-------

貸借対照表 有価証券：(2.9千円×10,000株) + (5.2千円×20,000株) = 133,000千円

##### 3. 期末商品の評価

@50千円

@49千円

商品評価損	棚卸減耗費
X商品	

850個 880個

商品評価損

(@50千円 - @49千円) × 850個 = 850千円

棚卸減耗費

@50千円 × (880個 - 850個) = 1,500千円

@8千円

@9千円

商品評価なし	棚卸減耗費
Y商品	

12,300個 12,400個

商品評価損

なし

棚卸減耗費

@8千円 × (12,400個 - 12,300個) = 800千円

帳簿棚卸商品

X 商品 50 千円×880 個=44,000 千円  
 Y 商品 8 千円×12,400 個=99,200 千円 } 143,200 千円  
 棚卸減耗費…1,500 千円+800 千円=2,300 千円  
 商品評価損…850 千円

(借) 仕 入	202,000	(貸) 繰越商品	202,000
繰越商品	143,200	仕 入	143,200
棚卸減耗費	2,300	繰越商品	2,300
商品評価損	850	繰越商品	850

貸借対照表 商品：143,200 千円－2,300 千円－850 千円=140,050 千円

#### 4. 減価償却

建物（定額法） 耐用年数 40 年 残存価格ゼロ

$(300,000 \text{ 千円} - 0 \text{ 千円}) / 40 \text{ 年} = 7,500 \text{ 千円}$

(借) 減価償却費	7,500	(貸) 減価償却累計額	7,500
-----------	-------	-------------	-------

備品（定額法） 耐用年数 8 年 残存価格ゼロ

##### ①旧備品の売却

旧備品減価償却（買い換え時まで）

$(60,000 \text{ 千円} / 8 \text{ 年}) \times (10 \text{ か月} / 12 \text{ か月}) = 6,250 \text{ 千円}$

(借) 減価償却累計額	37,500	(貸) 備 品	60,000
減 価 償 却 費	6,250		
固定資産売却損	4,250		
未 収 金	12,000		

##### ②新備品の購入

下取り価格差し引き後の純額を仮払金で処理している。

(借) 仮 払 金	60,000	(貸) 現 金 等	60,000
-----------	--------	-----------	--------

仮払金の処理 → [資料 2] 検討事項 2 (2)

(借) 備 品	72,000	(貸) 未 収 金	12,000
		仮 払 金	60,000

##### ①+②→買い換えの処理

(借) 減価償却累計額	37,500	(貸) 備 品	60,000
減 価 償 却 費	6,250	仮 払 金	60,000
固定資産売却損	4,250		
備 品	72,000		

##### ③新備品の減価償却

$(72,000 \text{ 千円} / 8 \text{ 年}) \times (2 \text{ か月} / 12 \text{ ヶ月}) = 1,500 \text{ 千円}$

(借) 減 価 償 却 費	1,500	(貸) 減価償却累計額	1,500
---------------	-------	-------------	-------

貸借対照表 備品：72,000 千円

減価償却累計額：219,000 千円

(建物) 210,000 千円+7,500 千円=217,500 千円

(備品) 37,500 千円－37,500 千円+1,500 千円=1,500 千円

損益計算書 減価償却費：7,500 千円+6,250 千円+1,500 千円=15,250 千円

固定資産売却損：4,250 千円

5. ソフトウェア償却

33,000 千円 / 5 年 = 6,600 千円

(借) ソフトウェア償却	6,600	(貸) ソフトウェア	6,600
--------------	-------	------------	-------

貸借対照表 ソフトウェア : 28,600 千円 - 6,600 千円 = 22,000 千円

損益計算書 ソフトウェア償却 : 6,600 千円

6. 退職給付

(借) 退職給付費用	400	(貸) 退職給付引当金	400
------------	-----	-------------	-----

損益計算書 退職給付費用 : 400 千円

7. 貸付金の利息

1 ヶ月の利息額は (2,400 千円 × 3.0%) / 12 ヶ月 = 6 千円

残高試算表の支払利息額 66 千円は 11 か月分 → 1 ヶ月分が未収利息

(借) 未収収益	6	(貸) 受取利息	6
----------	---	----------	---

貸借対照表 未収収益 : 6 千円

損益計算書 受取利息 : 66 千円 + 6 千円 = 72 千円

8. 費用の繰延

向こう 3 年分 (36 か月) 支払の保険料 2,700 千円のうち、

平成 30 年 1 月 1 日 ~ 平成 30 年 12 月 31 日 (12 か月)

2,700 千円 × 12 / 36 = 900 千円 → 前払費用

平成 31 年 1 月 1 日以降 (22 か月)

2,700 千円 × 22 / 36 = 1,650 千円 → 長期前払費用

(借) 前払費用	900	(貸) 保険料	2,550
長期前払費用	1,650		

損益計算書 保険料 : 2,700 千円 - 2,550 千円 = 150 千円

9. 法人税の計上

税引前当期純利益は 214,000 千円となるので、法人税等の金額は

214,000 千円 × 30% = 64,200 千円

【問 4】

$$\text{ROA (総資産営業利益率)} = \frac{\text{営業利益}}{\text{総資産}} = \frac{211,618 \text{ 千円}}{1,109,916 \text{ 千円}} = 19.0661\% \rightarrow 19.1\%$$